



千年に一度の地殻変動を掴んだ

遠山元信

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による地殻変動は、本震が M9.0 という大規模な地震であったが、埼玉の地でそれを検証するには我々素人のレベルでは無理だろうと判断した。しかし、埼玉支部の柴山勝士氏から、「千年に一度のチャンスを逃すな！」という檄が飛び行動することにした。

まず平成 23 年 4 月 27 日午後 3 時過ぎ、埼玉の臍とも言える堂平山の一等三角点標石上で GPS を利用して経緯度を測定してみた。震災前の堂平山の経緯度は、北緯 36 度 00 分 20.70 秒、東経 139 度 11 分 24.23 秒、今回測定した結果の平均値は、北緯 36 度 00 分 20.70 秒、東経 139 度 11 分 24.28 秒となった。東経だけが 5/100 秒だけ大きかったのであるから予想通りの結果に満足したのであるが、我々レベルの GPS では誤差が大きく、この値が即地殻変動に結び付くのかどうかは判断できなかった。その後、6 月 16 日に宮城県南三陸町に行ったが、時間的に三角点を探す時間が無く、検証できずに帰宅した。いつの日か、もう一度現地に行き三角点標石上で測定しようと考えていたところ、今年になり仕事で仙台に行く機会ができた。牡鹿半島に近い地であるため地殻変動を調べるには最適地と判断、そこでレンタカーで石巻市まで出向き、直接津波被害を免れた日和山(ひよりやま、55.0m、TR35741520401)の三等三角点標石の上で測る事にした。

平成 24 年 6 月 13 日(水)午前 10 時半、津波被害に遭遇した石巻市の町の中を通り、日和山三角点標石がある地点に立った。そこで前回と同じ GPS で 5 分間ずつ測定し平均値を出した。この震災前の経緯度は北緯 38 度 25 分 29.04 秒、東経 141 度 18 分 28.36 秒で、震災後に国土地理院が公開した新しい経緯度は、北緯 38 度 25 分 28.98 秒、東経 141 度 18 分 28.55 秒、これは昨年 8 月の作業結果で

ある。南へ 6/100 秒、東へ 19/100 秒変動していた。この数値を国土地理院がホームページ上で公開している計算式で計算すると 111 度の方向に 4.96m 変動していたことになる。しかし、その後の余震の影響や GPS の誤差も含まれて、今回測定した結果は北緯 38 度 25 分 28.94 秒、東経 141 度 18 分 28.63 秒となった。南へ 10/100 秒、東へ 27/100 秒の差が出た。M9.0 の震源地に近いだけに、この値の大きさに驚かされた。この数値を前述の計算式で計算すると、115 度の方向に 7.23m 変動したことになる。因みに、旧地形図に記載されている標高は 55.0m、現在国土地理院が公開している新しい標高は 54.4m で、標高も約 60センチ下がっていた。GPS の誤差は 2m ぐらいなので、その後の変動を考慮しても約 5m 前後という結果となった。とにかく震災前の値と比較すれば大きく地殻変動が起きていた事だけは、我々レベルの機械でも判断することができ、千年に一度の地殻変動を掴むに至った。



.....

行ってきました

多摩川・相模川分水界 2012年2月18日(土)
 生藤山から浅間峠

今井 秀正

昨年 11 月の鶴峠から三頭山に引き続いて南東に向かう笹尾根方面の踏査をしたいと思っていた。しかし冬の間はバスが三頭山下の都民の森まで登ってくれない。数馬からバス通り歩きでは日が短いこの時季では 1 時間の口は

もったいない。それなら、ということで昨年 9 月に生藤山から陣馬山を踏査したので今回は生藤山から三頭山区間の“空白部分”を無理をしない程度に歩こうということになった。コースは上野原駅(バス)--石楯尾--生藤山--熊倉山--浅間峠--上川乗(バス)--五日市駅 の予定で 9 時 46 分発井戸行きバスに乗り石楯尾神社で下車した。9 月は終点の井戸から歩いたので、別コースに変えた。今回は AGC のメンバー以外の 2 名が加わり、会としては久々の 10 人という大パーティーになった。神社の脇を 10 20 に歩き始めた。風は弱く、快晴、そして気温も真冬のハイソ

グ日和、前夜の雪が木々の枝、葉からサラサラと舞い降りてきて、快適な雰囲気だ。まもなく薄い雪の下が凍結していて滑りやすかったので、アイゼンを履くことにした。

12時25分に生藤山着。頭上は青空でも南西に見える富士山やその右に見えるはずの南アルプスは意外に背景の空が白くて、くっきりとは見えなかった。小休止後、来た道を下り、すぐ下の三国山のベンチで遅い昼食にした。ここから雲取山方向の展望は良好だったが、気がついてみると曇りではないものの、空は白い傾向に変わってきていた。

13:10 に三国山を出発。雪と落ち葉のミックスした路を大小のピークをアイゼンに落ち葉を喰えつつアップダウンして 14:45 頃に浅間峠着。東屋で小休止。

15:00 浅間峠から北斜面の下りに入った。樹林の下ということもあって、予想外にそれまでの南斜面や稜線よりも雪は少なく、むしろ古い雪が挟まった石ころの路だった。今思えば引っかけやすいアイゼンは早く外したほうがよかったのだが、転倒者が出たり、外したアイゼンを始末したりで上川乗バス停には 16:05 到着。予定していた 15:59 のバスを逃してしまった。

今回時間管理をしていた身としては、予定時間が押し気味であることや浅間峠からの所要時間と予定のバスにはギリ

ギリであること、そして遅れると次のバスは1時間50分後までないことがわかっていたのだから「小休止なし」の声を出しておくべきだったと反省している。

結局、タクシーを2台手配することにしたのだが、台数が少なく、1時間ほど先になるということだった。バス停でそのまま待っていても寒いだけなので、手洗いや身支度を整えなおし、駅に向かって歩きながら途中で拾ってもらうことになった。雑談をしながらバス通りを歩いたが、平地に雪は殆どなく、今回は今朝車窓から見た八王子市内の一面の雪景色に比べて意外だった。

4、50分歩いたところでタクシーに出会い、五日市駅手前の“魚鶴”に17:30頃到着し、いつもの反省会。久々の大人数で楽しい山行ではあったが、反省することも多々あったと思っている。

多摩川分水界の山間部踏査は三頭山から今回の浅間峠間と長沢背稜から柳沢峠間の“大物”を残している。引き続き多くの皆さんに参加していただくことを願っている。

参加者:北野忠彦、鶴田泰子、高田容子、寺田正夫、寺田美代子、川口章子、長谷川敦子、山田誠(非会員)、関美尋(非会員)、今井秀正(10名)以上

行ってきました

**会津磐梯山「復旧した三角点の確認」
平野 彰**

平成 22 年 10 月 16 日 磐梯山に、全国的にも珍しく、東北では初めてという三角点が復旧した。山岳地理クラブとしては、この三角点を直接見てみたいとの思いから、磐梯登山の計画案を策定中、科学委員会からジオパークの認定を受けた磐梯山とその周辺、それと新三角点の探索の目的で山行計画の発表がなされた。当クラブとしては当初の計画とも一致するのでこれに便乗することとした。因みにジオパークとは、「世界ジオパーク」ユネスコが支援する世界ジオパークネットワーク(GGN)が認証する、科学的・文化的価値のある地質遺産を基にした自然公園のことで、いわば人と大地との関係で、地質や地形は勿論すばらしい景観や貴重な動植物を始め文化や歴史、食べ物、温泉など大地のすべてを楽しみ学ぶテーマパークのことで、今回磐梯山周辺は国内の認定を受けたもので、さらに世界の認定を受けるべく活動中との事。



角点が設置されたが昭和 21 年の調査では「未発見」と記録されている。吾妻山(一切経山 1948.8m)が一等本点、猫魔ヶ岳(1404.0m)が一等補点で明治 21 年に設置されたのに対し、12 年後に設置された磐梯山が三等なのは明治 21 年の大噴火があり当時としては大変危険な山だったのではないかと思われる。現在では国土地理院は GPS 測量が中心なので三角点の必要性がうすれているが、地元猪苗代山岳会(会長江花俊和氏)を中心とした復旧活動の熱意で再設置が実現した。

6月23日磐梯山噴火記念館前で待つこと暫し、11時30分本隊50名ほどの載ったバスが到着。佐藤記念館副館長の案内で館内の見学と噴火口の銅沼(あかぬま)まで登った。スキー場のなだらかな斜面を登り銅沼に着いた。水は澄んでいるが付近の岩は一面赤錆色だ。また爆裂火口の凄まじさに圧倒される。途中「岩な

だれ」の堆積地域にある小さな丘陵(流れ山)などの説明があった。JR 磐越西線の猪苗代駅から会津若松までの線路が幾重にも蛇行しているのはこの流れ山を避けて通ったのが原因のようだ。翌24日八方台駐車場から登山開始。多少ぬかるみもあるが、快適な道だ。

また三角点の復旧については、明治 37 年 5 月に三等三

今は無人の中の湯を過ぎると、間も無く弘法清水に到着。いつもは列をつくるこの清水、今日は水を汲む人も疎らだ。

磐梯山特有の「バンダイクワガタ」も見つかり、ここで昼食をとる。



バンダイクワガタ

頂上近くのカレ場を行くと、復旧なった、真新しい三角点があった。(写真下)



手前に埋め込まれた銅版には次の文字が刻まれていた。

三等三角点「磐梯」

磐梯山山頂の三等三角点「磐梯」は明治37年(1904年)5月に設置されたが長年の風雨の浸食等により三角点が亡失したため「磐梯山三角点復旧支援会(代表 猪苗代山岳会)」の協力を得て三角点の再設置を行いました

平成22年(2010年)10月 国土交通省国土地理院

三角点再設置が承認決定されたが、必要な材料を頂上まで運び上げるのも一苦労であったとのこと。60kg 近い柱石や盤石それとセメントなど。幸い当日はボランティアの参加者が大勢集まり、特に郡山自衛隊員の献身的な協力が大きかったとのこと。設置後標高等の測量結果1816.29mに変更された。従来の1818.6mより2.3mも低くなったが、他の山の例からも当時の測量技術は相当高く、測量の誤差ではなく、明治の設置後相当の山体崩壊があったのではないかと推定される。

しばらく展望を楽しんだ後、下山道はこの山では最も急な押上り口を選んだ。急な下りで思わぬ時間を要したが、全員無事バスの待つスキー場へ辿り着いた。梅雨のさなかこの二日間だけが快晴の快適な山行だった。

行ってきました

京都一周トレイル

近藤 善則

中山道の京都三条大橋に到着したのは2012年3月末であった。ここまで殆ど同行した2人(片野・上田)と共に翌日、三条大橋から三条通りを西に進み、市内の旧跡を訪ねながら嵯峨野・嵐山方面に向かった。

京都に到着する数日前、友人から「京都一周トレイルコース」があることを知り、多少興味を持っていたこともあり、嵐山から松尾山を経て西芳寺(苔寺)にいたる西山コースが丁度手ごろなコースのようだったのでトライしてみることにした。京都一周トレイルは京都盆地外周 東山～北山～西山の山々を巡る名所旧跡などの歴史や文化を感じるハイキングコースで、8～9回の行程で一周できるように設定されている。今回の西山コースは阪急・嵐山線の土柱駅をスタートし苔寺から松尾山を経て嵐山・渡月橋から嵯峨野の二尊院・祇王寺から鳥居本、化野念仏寺などを経て六丁峠を越えて溪谷沿いを清滝まで。その先は北山西部コースに接続している。

われわれは翌々日 JR 嵯峨嵐山駅からスタートし渡月橋の嵐山公園から松尾山の登山口にとりつく。

桜の開花寸前とあって、まだ蕾ばかりのなかにちらほら咲き始めている気配に京の春がすぐそこまで来ているのを感じながら、松尾山の山頂へ快適な路が続く。山頂の東方向から北に続く山並みはまさに一週トレイルコースを俯瞰するにふさわしい展望で、この先このまま一週コースを歩き続けることを決意。中山道に始まったトレイルは成り行きで次のステ

ージに入っていった。

5月19-20日、2回目の京都トレイル。嵯峨嵐山駅から北に向う。天竜寺脇の竹林から二尊院、化野と小倉山の北東を回り込み六丁峠の急坂を経て清滝へ。



ようやく観光客の喧騒をはなれ初夏の京都らしい空気を吸い込む。しばらくは溪谷沿いの路だ。コースは北山西部の域に入り三尾(さんび)と称される高雄まで一日目とする。続きの二日目は先ず高山寺の階段から汗をかく。三尾とは高雄、槇尾、梅

尾の総称で紅葉の名所で名高い。秋には大勢の観光客で賑うのだろうが今は閑散として、時々一周トレイルを歩いているグループがすれちがう程度だ。今日は一転、山道の連続仏栗(ほとぐり)峠、上の水峠、京見峠を経て氷室から向山を越え二の瀬に下る。そもそも北山とは今回のコースから北側の山域全般のことを言うようだが、京の人々にとっても若干捉え方が違い、京都市内をふくめた北縁沿いのことをいったり、登山としての北山を紹介した今西錦司らは、鴨川の水源地の山々を指していたという。だから室町時代の北山文化に示される小さい地域も、京の北側に連なる山々全般域も同じ北山なので、なかなか奥の深いテーマがある。次回は鞍馬から大原、比叡山へと歩を進める予定だ(つづく)

参考資料

自然歩道について

AGCの例会で、次のテーマとしてとりあげようとしている自然歩道とはどういうものなのか？ 若干の資料をまとめてみたい

東海自然歩道からはじまる

1969年(S44)当時の厚生省がアメリカのアパラチア山脈で建設されていた自然歩道をヒントに企画し1974年(S49)東海自然歩道として二つの国定公園が歩道で結ばれた。具体的には東京都八王子市の「明治の森高尾国定公園」から大阪市の「明治の森箕面国定公園」までの11府県約90市町村を通過する1,697kmにおよぶ長距離自然歩道だ。その後全国各地で同様な自然歩道が整備された

完成した順に挙げると

- 九州自然歩道(やまびこさん) 1980(S55)九州7県 2,587km
- 中国自然歩道 1983(S53) 中国地方5県 1,998km
- 四国自然歩道(四国のみち) 1989(S64) 四国4県 1300km
- 首都圏自然歩道(関東ふれあいの道) 1988(関東地方 1都6県) 1799km
- 東北自然歩道(新・奥の細道) 1996(H) 東北6県 440km
- 中部・北陸自然歩道 2000年 中部・北陸の8県 4030km
- 近畿自然歩道(旧山陽自然歩道を含む) 2003(H15) 近畿2府7県 3258km
- 北海道自然歩道(現在整備中)

完成当初はマスコミにも取り上げられ話題になったが、実際の管理運営は通過する各自治体に任せられ、取り組む姿勢はまちまちで、統一した維持管理がなされておらず、廃道同然の状態のところも多々ある。

アメリカのロングトレイル

一方、アメリカではアパラチア山脈をメインとした東海岸のジョージア州からメイン州の14の州を結ぶ2,160マイル(4000km)のアパラチアトレイルや西海岸のパシフィッククレストトレイル(4300km)、ロッキー山脈を南北につなぐコンチネンタル・デバイド・トレイル(5100km)などがナショナルシーニックトレイル(国立景観歩道: NST)として堅実に維持管理されている。



アメリカにはもうひとつナショナル・ヒストリカル・トレイル(国立歴史歩道: NHT)という歴史的な遺構などを記念するルートがあり NST、NHT 共に連邦議会が指定できるという。

さらにナショナル・リクリエーション・トレイルという比較的短いルートが全米各地にあり日本とは比較にならないぐらいの国家予算で運営している

最近のロングトレイル

最近に日本でも各地にロングトレイルが話題になっていることは、AGC レポート vol-9 でも記したが、その後各地でさまざまなトレイルが現れている。日本トレイル協議会に登録されているものだけで現在11ルートを数え、それ以外にも各地に独自の基準で称しているものがある。前著「京都一周トレイル」もそのひとつだ。単にピークを目指す登山だけでなく自然そのものを楽しむ風潮が一役を担っているといえる。山を越え谷を越え、コースに沿って点在する歴史的な史跡や寺社に立ち寄り、アメリカで発展してきたロングトレイルは日本でも定着し、アウトドアのジャンルの大きな一角を占めるようになってきたのだろうか。

参考1:「日本ロングトレイル協議会」加盟トレイル

- ・北根室ランチウエイ (70km) 北海道中標津町
- ・とかちロングトレイル (200km) 北海道帯広市村5市町村
- ・信越トレイル (80km) 長野県飯山市
- ・浅間ロングトレイル (170km) 長野県小諸市、群馬県嬬恋村村4市町
- ・ハケ岳山麓スーパートレイル (200km) 長野県茅野市、山梨県北杜市村10市町村
- ・塩の道トレイル (120km) 長野県小谷村
- ・霧ヶ峰・美ヶ原中央分水嶺トレイル (38km) 長野県長和町
- ・高島トレイル (80km) 滋賀県高島市

参考2: その他のトレイル

- ・南房総ロングトレイル (100km)
- ・奥秩父ロングトレイル
- ・京都一周トレイル (70km)
- ・富士箱根トレイル
- ・とやま雲上パノラマトレイル (33km)
- ・北大雪ロングトレイル (70km)
- ・東十勝ロングトレイル
- など

AGC ならではのトレイル

まず手始めに「関東ふれあいの道 栃木コース」を計画。行道山から足利駅への「歴史のまちを望むみち」約9kmを歩くことにしよう。栃木県には36コース・393kmがあり群馬県と茨城県に接続し、さらに東北自然歩道とも接続するコースが設けられている。単にトレイルコースを歩くだけでなく、コースの地形把握や読図、GPSによるトラックデータの取得、地形図との相違点などコースの評価などを行いながらの踏査を検討している。

山行計画 第一回「関東ふれあいの道」トレイル
足利駅北方の行道山浄因寺から織姫神社へ南下するコース
2013年1月19日(土曜日) 詳細は後日発表(担当: 平野)

以上 まとめ 近藤善則

AGC レポート vol-49 2012年10月25日発行
発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ(代表: 北野忠彦)
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付
TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441
編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com